

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人 協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
教育部会長 若林 克彦
両団体専務理事 清原 淳平

教育部会のお知らせ (第347回)

日時 平成30年12月14日(金) 午後1時半～3時半
場所 衆議院第二議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車4分、
永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車3分。当日、
午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時
刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付
脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、
受付に「第4会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎え
にまいります。

- 議題 1、本年に期待する教育改革
挨拶 若林克彦部会長(国士舘大学元学長)
2、要請書テーマの絞り込み(前回より継続)
解説 若林克彦部会長

報告 去る11月30日開催の、第346回教育部会は、若林克彦部
会長が議長を務めて行われました。まず、若林部会長より、「最
近の高等教育改革について思う」と題して挨拶がありました。理
数系が得意な高校生を研究者の卵に育てる目的で、高大一貫制度
を新設することになった。理数系教育に実績ある大学と複数の高
校が連合で申請する。指定を受けると支援金が拠出される。最初
に指定される予定の学校は1団体のみで、付属高校を持つ大学は
対象外となる。切れ目のない専門教育を行う狙いだが、似たよう
な制度に15歳からの5年間と2年間の専攻課程で高大一貫と

同様の教育内容を行う高等専門学校がある。これとのすみわけをどう進めていくか、注目していきたい。

次に、要請書テーマの絞り込みについて、資料の読み上げ及び意見交換がありました。○高等学校専門学校の充実については、10年ほど前に中教審でも議題になったが、入学倍率を一定の割合に保つことによって、優秀な学生を集める工夫をしている。全寮制がメリットになっており、人格形成でも評価は高い。実験中心のカリキュラムであり、ロボットコンテストでも大学生を上回る評価を得ている。企業も製造業を中心に高専の卒業生を欲しており、求人倍率は16倍に上っている。インターンシップが長期間出来るのも人気の理由だ。一方、中学生に対する浸透度はさほど上がっていない。大卒に比べて待遇が良くないという不満が一部の卒業生から聞かれる。教員の多忙さ、研究費の不足など、大学同様の問題を抱えている面もある。就職率の高さだけにひかれて高専を進路選択すると、5年の中の3～4年あたりで中だるみして成績が落ちる事例もみられる。○工科大学は学部が結節点になっておらず、大学院まで進まない十分な教育ができないという声もある。高専の専攻科を発展させたほうが良いのでは。○大学生が約半分の時間をアルバイトに費やしているというデータもある。これでは学業がおろそかになるのも当然。○画一的だった大学設置基準が抜本的に変わるなど、文科省もあの手この手で改革を進めている。当団体では数年前に6・3・3制の見直しを提言したが、枠組みにとらわれない改革案を提言していきたい。

★資料代 会員は**五百円**に ご協力御願ひ申し上げます。

次回、12月14日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

**テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。非会員で
参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。**

（その場合の当日会費は二千円となります）

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620